



保健のページ



今月は、子どもによくある皮膚トラブルである『虫刺され』についてお話します。

子どもの虫刺されは、大人に比べると症状が出やすく、掻き壊しから「とびひ」に移行する場合があります。刺されたあとに、かゆみを抑えるにはどうしたらいいのでしょうか？

- ① 患部をせっけんなどで洗いながら、流水で流しましょう
- ② 患部を冷やします。保冷剤や氷のうを用いて、冷やしていきます。冷やすことにより、皮膚の温度が下がり、かゆみを感じている神経の興奮が落ち着き、かゆみが少なくなります。

かゆみが強い場合には、かゆみ止めの軟膏を塗布したり、内服でかゆみを抑えることもあります。

小児科や皮膚科でご相談ください。

また、じんましんや息苦しさ、腹痛、意識消失などがあれば、アナフィラキシーショックが疑われますので、急いで受診をしてください。

次に予防ですが、まずは「虫よけ」の種類を紹介します。

①主成分：ディート

年齢制限があり、6か月未満は使用できません。

多くの虫に対して効果があると言われています。製品の濃度にも違いがあり、ディート10%以下の商品は6か月以上の子どもにも使用可能ですが、ディート30%の商品は12歳から使用可能となっており、使用できる年齢に違いがあります。

②主成分：イカリジン

年齢制限はありません。一回の使用で数時間効果が持続しますが、汗をかいた後などは塗り直しが必要です。園で使用している虫よけスプレーは、イカリジンが主成分になっているものです。虫よけスプレーの使用を希望される方は、お知らせください。

清潔に保つことも予防の一つです。汗を拭いたり、爪を短くしておくことで、掻き壊しを予防していきましょう。なお、シャワーを浴びるのも良いのですが、一日に何度もせっけん・ボディソープで体を洗うと、乾燥してしまいますので、せっけん・ボディソープの使用は一日一回程度にしましょう。

黒い服には虫が集まりやすい習性があります。白っぽい服の方が虫が集まりにくいようです。

いろいろ対策をしても、虫刺されから掻き壊し、「とびひ」に移行してしまうこともあります。

「とびひ」は正式には伝染性膿痂疹と言い、皮膚に細菌感染を起こしている状態です。

虫刺されの部位から、その周囲や離れた場所にも症状が広がっていきます。

「とびひ」になってしまったら、受診をしていただき、薬を使っていただく方が早く治っていきます。学校感染症にも指定されている感染症で、他にうつる可能性があります。園では、覆うことが出来る場合は登園可能となっておりますが、部位によっては覆うことが難しい場合もあり、その場合はお休みをお願いすることもありますので、ご了承ください。

看護師

